

## 2019年6月定例会 本会議質疑と当局答弁

2019年6月13日（木）

◎藤元聡美議員 一般質疑（30分）

- 1、生活困窮者に対する食料支援とフードバンク活動支援について
- 2、本市の防災教育・防災体験学習施設の充実について
- 3、八幡図書館の整備と改善を求めて

### 藤元聡美議員への答弁

※第二質問以降、議員の質問内容は基本的に要約しています。

- 北橋市長の質問（食糧困窮者・フードバンク支援）
- 教育長の質問（防災教育）（八幡図書館の整備と改善）
- 危機管理官の質問（防災体験学習施設）
- 藤元聡美議員の質問（八幡図書館の整備と改善）
- 教育長の質問
- 藤元聡美議員の質問
- 教育長の質問
- 藤元聡美議員の質問（防災教育）（食糧困窮者・フードバンク支援）
- 保健福祉局長の質問
- 藤元聡美議員



以上

## 2019年6月定例会 本会議質疑と当局答弁

2019年6月13日（木）

### ◎藤元聡美議員 一般質疑（30分）

皆さんこんにちは。日本共産党の藤元聡美です。会派を代表して一般質疑を行います。  
まず、生活困窮者に対する食料支援とフードバンク活動支援について伺います。

フードバンクは、食品を扱う企業等から食品を引き取って、福祉施設等へ無料で提供する団体や活動のことです。

先日国会において、食品ロスの削減の推進に関する法律が成立しました。この法律は、国や市町村、事業者、消費者等が食品ロス削減の推進にむけて取組みを強化するとともに、貧困や災害等により食べ物の支援が必要な方に提供するフードバンク活動の促進に向け、活動を支援するために必要な施策を国や市町村が実施することを定めています。

本市では現在、NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲインが食料支援活動を行っており、福祉施設や子ども食堂、困窮世帯、とりわけ子育て世帯に対するサポートを重視して活動しています。活動は、ほとんどが寄付とボランティアによって支えられているため、希望される配達場所へ食料を運ぶガソリン代を捻出することさえも大変な状況です。そのため、企業から大口の食料支援の申し出があっても、さばききれぬ量だけしか受け取れないこともあるそうです。

子育て世帯に限らず、全ての生活困窮者が生活の立て直しや生活保護など様々な社会保障制度につながっていく一環として、食料支援をうける、食のセーフティネットとしての役割がフードバンク活動に期待されています。

本市の2017年度食育に関する実態調査によると、食費にお金をかけたいが、金銭的なゆとりがないと回答した人は40.9%であり、全国調査の24.7%より高い割合を示しています。

本市では、生活困窮者の相談と支援を行う「いのちをつなぐネットワーク」窓口を各区役所に設置しています。経済的に困窮している方の家計相談支援事業は、2016年度は373人、2017年度は469人と多くの方が利用しています。時には相談者に、市が購入したごはんのパックやクラッカーなどを渡すこともあるそうですが、食料の購入予算は限られています。

フードバンク団体が行政や社会福祉協議会等と連携して、希望者に直接食料を提供する支援の仕組みが全国的に広がっていますが、本市では、まだ行政とフードバンク団体との食料支援における連携がうまくいっていないとききます。

現在は、生活困窮者が食料支援を受けたいと希望しても、相談窓口がどこなのかよくわからない状況です。そこでおたずねします。

生活困窮者への食料支援の一環として、フードバンク活動の促進を図るべきと考えますが、活動が促進されるためには、市の財政的援助が必要不可欠です。あわせて、フードバンク活動を市民に周知し、支援が必要な方に確実に活動がにつながるような具体的な体制を整備する等、市と活動団体が連携・協力すべきと考えますが、見解を伺います。①

次に、本市の防災教育・防災体験学習施設の充実についておたずねします。

我が党市議団らは５月に、岩手県釜石市、宮城県仙台市等を訪問し、東日本大震災から８年を過ぎた被災地の現状について、視察してまいりました。釜石市では、本市から派遣された釜石デスクをはじめとする職員の奮闘ぶりに触れ、改めて被災地の復興支援の思いを同じくしました。

釜石市では、震災前から防災教育を実践していましたが、特に、震災時の「釜石の奇跡」といわれる、中学生らが住民や幼児・小学生を率先して誘導避難させ、津波では児童生徒が命をおとさなかった事例を教訓として、伝承・発展させようと努力しています。具体的には、小中学校合同避難訓練や中学生が避難所運営や炊き出し等の訓練を行っており、訓練等を通じて、児童生徒が自然災害や減災等の理解を深め、自他の命を守るために主体的に行動する「いのちの教育」の推進がなされています。これらの教育を通じて、子どもたちが将来のまちづくりを担う自覚を高めることをねらいとしています。

一方、本市では、小中学校の防災教育指導資料「防災教育プログラム」に基づき、小学１年生から中学３年生が学習しており、防災と地域との関わりも学ぶようにはなっていますが、多くの防災訓練は学校単独で実施されています。また、地域の防災訓練でも、子どもたちの参加は少ない状況にあります。しかし現実の災害時には、多くの学校が避難所となることが予定されているため、それを想定した訓練が必要ではないでしょうか。

加えて、子どもたちや市民の防災意識の向上のために、災害の脅威を体験できる装置や、過去の災害を学べる写真などの展示施設が常設型で身近にあれば、防災への取組を身近なものとして感じ、重要性についても認識することができるのではないかと考えます。そこでお尋ねします。

現在、市の「防災教育プログラム」は見直し中とのことですが、釜石市の事例のように、子どもたちが、実際の災害時に地域で主体的に避難活動ができるような防災学習や避難訓練にすべきです。また、防災・避難訓練では、小中学生が地域の方とともに参加する訓練を本市の全ての小・中学校等で実施すべきと考えますが、見解を伺います。②

また、全国には、地震や台風、煙、消火体験など様々な体験ができる防災体験館があります。本市では、常設型では、自然の脅威を体験できる施設として児童文化科学館のウィンドシミュレーターがあるのみです。移動型では地震体験車がありますが、予約が必要です。科学館の建て替えにともない、防災体験学習ができる設備をさらに充実させ、市民や子どもたちがいつでも学習できる常設の防災体験館を整備するべきではないでしょうか。

見解をおたずねします。③

最後に、八幡図書館の整備と改善を求めておたずねします。

八幡図書館は、我が国の著名な建築家である村野藤吾氏が設計した優れたデザインの建物でしたが、新設・移転する市立八幡病院の建設用地が不足しているとの理由で、2016年7月に解体されてしまいました。

そして新図書館は、病院建設敷地内にある旧九州国際大学文化交流センターの一部に移転され、2016年4月に開館しました。

その後、図書館の前面を塞ぐように4階建ての薬局が建設され、図書館の後方には7階建の病院、図書館内部の2階、3階には病院管理棟が同居しています。

図書館裏にある市立八幡病院に隣接する消防局救急ワークステーションから出動する救急車は、敷地内の図書館横通路を通過し、公道に出る際には、救急サイレンを鳴らす決まりとなっており、1ヶ月あたり約200回出動しているため、静かでゆったりとした読書環境だとはいえません。

もともとは図書館ではない建物に移転したため、間取りにも無理があります。各区の地区図書館の延べ床面積で比較すると、八幡図書館は約1500㎡であり、人口が同規模の戸畑区は約2900㎡、若松区は約2000㎡であり建替え予定の門司図書館を除くと八幡が一番狭くなっています。八幡図書館の一般室の内部は、書架の背が高く通路は狭いため圧迫感があり、閲覧席は横並びのカウンター席がわずか12席しかないうえに、書架の間にも椅子が置かれているので、狭くて使いにくいという声が出ています。この狭さでは、車椅子の方が通路で本選びをできるのか疑問です。さらに八幡図書館は、蔵書数が他の区の図書館と同規模の約18万4千冊であるにも関わらず、一般室が狭いため、開架冊数は地区図書館では最も少ない10万冊であり、蔵書の多くは閉架されたままです。

市民に親しまれてきた歴史的建造物を解体した上に、より良い図書館づくりの議論を市民と十分に行わないまま移転したことは、本来市民の心の安らぎと生涯学習・文化の場としての図書館のあるべき姿と矛盾しています。そこでおたずねします。

八幡図書館は、八幡東子どもと母のとしょかんも廃止された今、東区では唯一の図書館です。図書館を使いやすくするために単独施設として再整備し、十分な開架書架数と閲覧席などの広さを確保し、読書環境を改善することが必要と考えますが、見解をうかがいます。④

以上で私の第一質問を終わります。

**藤元聡美議員への答弁** ※第二質問以降、議員の質問内容は基本的に要約しています。

## ■北橋市長

### (食糧困窮者・フードバンク支援)

生活困窮者に対する食糧支援、フードバンクの支援についてお答えいたします。

本市では各区にあります命をつなぐネットワークのコーナーにおいて、生活困窮者からの相談を受け、自立相談の支援、家計改善の支援、また住居確保給付金の支援などを行っております。相談を受ける中で緊急措置として、市が購入したご飯のパックやクラッカーなどを渡し、一時的な支援を行う場合もあります。フードバンク事業は寄贈された食品を福祉施設などに提供するNPOなどの独自の活動です。

本市におきましては、NPO法人、フードバンク北九州・ライフアゲインがこの事業を実施し、平成26年から、命をつなぐネットワーク推進会議の協力会員に登録していただいております。フードバンク北九州・ライフアゲインでは、家庭で余った食品の回収を行うフードドライブキャンペーンを定期的に行っております。また福祉施設やホームレスに対する炊き出し事業への食品の無償提供を行っております。

このような取り組みを通じて、生活困窮者などの支援が必要な方の自立に向けて、精力的に貢献をしていただいております。その一方でフードバンクの活動をさらに広げるためには、認知度が不十分であること、また食糧を配送する人手が不足していること、このように課題があると聞いております。

このような中、本年の5月、食品ロスの削減の推進に関する法律が成立しました。法律では食品ロスの削減に向け、国や地方公共団体、事業者、及び消費者の責務や役割が明記されるとともに、フードバンク活動への支援などが規定されております。

このため、今後も活動団体と連携をはかるとともに、市民周知をはじめ、フードバンク活動への効果的な支援につきまして、他の都市の取り組み事例などを参考にしながら検討してまいります。

## ■教育長

### (防災教育)

私からは、教育の点につきまして二点いただきましたので、順次お答えいたします。

一つ目は、防災教育について、子どもたちが主体的に避難活動ができる防災学習や避難訓練にすべき、また地域の方とともに参加する訓練を、すべての小中学校で実施すべき、という点でございます。

本市の小中学校における防災教育は、避難訓練や防災教育をすすめるための指導展開例をまとめました北九州市防災教育プログラムを中心に進めております。

各教科、道徳特別活動などにおいて、危機に接したときに人に頼ることなく自分で判断

し、自分の命は自分で守る、ということを最優先として実施しております。その他、消防署と連携した災害図上訓練でございますJ-D I G（災害図上訓練）で地域の災害リスクを知って、その対応策を検討することを通して、防災意識の向上を図るなど、実態に応じた避難訓練や防災教育を進めているところでございます。

地域と共同の防災訓練ですが、昨年度、地域が主催している防災訓練に参加したのは、小学校で22校、中学校で7校でございました。地域と共同の防災訓練の内容といたしましては、応急手当の方法を習ったり、避難所の設営訓練を手伝ったり、備蓄食料の確認を地域とともにおこなったり、煙の中の通過の訓練をしたり、土嚢を作成する訓練を行いました。

児童生徒には、自治会や市民センター主催の避難訓練に参加するように積極的に呼びかけをしたり、学校は協力をしたりしております。

今後の方向性でございますが、教育委員会といたしましては、今後も引き続き防災教育の充実を図って、児童生徒の発達段階に応じた主体的な避難行動が行われるようにするとともに、地域主催の防災訓練に対しては、学校から児童生徒に対し、積極的に参加するように呼びかけてまいりたいと考えております。

#### （八幡図書館の整備と改善）

続きまして八幡図書館を再整備すべきとのご質問でございます。

八幡図書館の状況でございますが、平成28年4月に移転開館した現在の八幡図書館ですが、旧八幡図書館とほぼ同じ、1500㎡の広さで、書架と書架の間は車椅子も通行が可能となっております。また蔵書数は18万4千冊で、市内の地区図書館の中では3番目となっております。また開架図書数は10万冊で、門司図書館とほぼ同程度でございます。また旧八幡図書館と比較して、3割以上広い児童室のスペースを確保いたしまして、旧八幡図書館では閉架となっておりました郷土資料を新たに整備した郷土資料室の開架図書に配置しております。その結果、一般室と郷土資料室との閲覧席数の合計は33席と、旧八幡図書館一般室の閲覧席数36席とほぼ同程度でございます。

加えまして一般室の隣には吹き抜けのガラス張りの明るいロビーがございまして、30席の座席は飲み物を飲みながら読書を楽しむなど、様々なスタイルで読書に親しんでいただくことができております。

この結果、平成30年度の貸出者数、貸出冊数は、移転前の平成26年度と比較しましてともに2割程度増加するなど、多くの方にご利用いただいているところでございます。また利用者アンケートの結果を見ましても、非常に満足、満足と答えた方の割合は、約90%となっておりまして、多くの方にご満足いただける図書館となっていると考えております。

今後とも現在の環境を最大限に生かしながら、これまで以上に多くの方に喜んでいただ

ける図書館サービスの提供に努めてまいりたいと考えております。

## ■危機管理官

### （防災体験学習施設）

防災体験学習施設に関するご質問にお答えいたします。

市民ひとり一人が防災意識を高め、いざというときに自ら命を守る適切な判断や行動をとることが重要であり、これまでも模擬体験を取り入れた学習に取り組んでまいりました。

具体的には児童生徒対象の取り組みとして、小学4年生を対象としたスモークマシンを使った煙体験や、消火器の取り扱い訓練、消防士さんと一緒に、中学2年生を対象とした災害図上訓練・J-D I G、すべての市立小中学校が参加するシェイクアウト訓練などを実施しております。

地域における体験型の訓練啓発といたしましては、地震体験者の派遣などを実施しております。毎年1万人前後が利用しております。

また平成30年度の総合防災訓練では、段ボールベッドや仮設トイレなどによる避難所生活体験コーナー、土砂災害を3D映像で学べるコーナー、水没した車からの脱出方法をバーチャルリアリティーで学べるコーナー、災害ボランティアセンターの受付やマッチングなどの運営手順を学べるコーナーなど、模擬的に体感・体験できる試みを導入しました。参加した市民の皆様からは、「身近に災害を感じることができた」などの意見が寄せられており引き続きこうした身近な場所で気軽に体験していただける手法を取り入れ、訓練や啓発などに取り組んでいきたいと考えております。

ご提案の常設の学習施設につきましては、他都市での設置事例があることは承知しております。相乗効果の発揮が期待できる施設との連携も含め、今後の課題としたいと考えております。

いずれにしても、幅広い世代、多くの市民の方に防災に興味を持っていただけるよう、今後も研究や工夫を重ね、市民の防災意識の向上に努めてまいります。

## ●藤元聡美議員の質問

### （八幡図書館の整備と改善）

まず図書館問題だが、現在の八幡図書館は、旧八幡図書館と同じような規模で再建するというのが移転整備計画の元々であった。それで先ほどの答弁も同規模で再建したから問題がないという考えで、答弁が行われたと思う。

しかしこの移転整備計画が作られました2015年の時点と今では周りの環境が変わってきている。相次いで市内では八幡西区、戸畑区、小倉南区と各区で広々とした地区図書館が整備されている。

一方で八幡東区では先ほども申し上げたように、八幡東子どもと母のとしょかんが廃止

され、東区では唯一の図書館となってしまった。

その結果、地区図書館として今の八幡図書館が果たすべき役割が非常に重要になっている。

その役割とは何なのか。それは八幡図書館の整備計画にも書いてあるが、本、知る、知の拠点、それから生涯学習機会の拠点、そして地域を支える情報の拠点、ゆとりある空間、書架の配置。これが整備計画にも書いてある。

いま八幡図書館は、指定管理になっているが職員のみなさんは、非常に限られた空間で一般室が狭いので、展示にも工夫をしてロビーとかにも書籍の展示に非常に工夫して頑張っておられる。これには非常に感謝申し上げたいと思う。しかしあまりにも一般室が狭すぎる。これに原末して帰ってしまったという方を、何人も話を聞いている。図書館の司書の資格を取るのに、学ぶべき図書館情報学というのがある。その科目の一つに、図書館施設論というのがあるが、その中に適切な書架の間隔、スペースがしっかりと書いてある。いまの八幡図書館は、公開されている図面によると、書架の間隔は1.2m。これは先ほど申し上げた図書館施設論の中では、なんと一番最小の閉架、一般的には立ち入ることができない、クローズされた閉架の実用の最小スペースとして書かれている、その幅が1.2m、今の八幡図書館である。それでこの図書館施設論によると、車いすと人がすれ違うのに一般的な間隔は、1.65から1.8mが必要だと書いてある。もう一度教育長にお尋ねしたいが、このような実態で高齢化の進む八幡東区、それから病院と隣接しているので体の不自由な方もたくさん見えられているが、このような場所にある八幡東区で、必要なバリアフリーの生涯学習のゆとり空間だとお考えか。再度お答えを。

## ■教育長

ただいま藤元議員の方からる、利用者の方の意見がたくさん入っていると伺いました。

ただ逆にですね、私どものアンケート、おっしゃいましたようにあちらの施設の方ですね、随時利用される方のアンケートを取っております。利用者の方からのアンケートですね、逆に私どもの方に届いている声では、統計的にもですね、9割の方がほぼ満足していただいて、その中にはですね、「施設が明るくなって気持ちよく読書ができる」、「広いロビーで借りた本をすぐに子供に読み聞かせしてあげることができる」、「郷土資料が前のところでは閉架であったけども今は開架なので調べやすい」そういう風な好意的な意見がたくさん寄せられております。いろんな方の意見があると思いますけども、寄せられた意見を大切にこれからも管理してまいりたいと思います。

それとデータでございますけども、満足度という同じ基準で調べますと、八幡西区、お隣の新しい図書館の全体の満足度は83.3%でした。同じ時期に同じ基準で調べましたら八幡図書館は89.7%と、八幡西図書館よりも満足度は高くなっております。

## ●藤元聡美議員の質問

先ほどの書架の間隔につきましてお答えがなかったと思うが、そのようなことについての答えはあったのか。

## ■教育長

書架のスペースの関係でございますけれども、福岡県福祉のまちづくり条例の手引書というのがございます。そういう手引書にもとづきまして、このスペースの間は、配置をしておりますので、車いすが通れるということで、今の開架になっているところでございます。

## ●藤元聡美議員の質問

実際に行かれると、立っている人二人がそれぞれ背中合わせで本を選ぶだけでも非常に狭いと感じる。ぜひこの件についてもアンケート調査をしていただきたいと思う。

それと郷土資料室の話も出たが、当初の整備計画では、新聞閲覧コーナー、これは吹き抜けのロビーのところに配置される計画であった。しかしいま新聞閲覧コーナーは、この郷土資料室の一角にあって、郷土の貴重な本と同じフロアにある。私も今回の質問に際していくつかの地区図書館を見てきたが、新聞閲覧コーナーは、大体入口の入りやすいところにあって、みなさん気軽にご覧になる。ところが八幡図書館は、重々しい郷土資料室の扉の奥にあるということで、なかなか立ち入ることも気兼ねしてしまうような状況にある。ぜひ今多くの市民の声を参考にしながらやっていくと言われたが、アンケートだけでなく、再度いろんな意見を聞いて、使いやすい図書館にしていきたいと思いますと思う。

市民憲章にも文化のかおる街にしますという風に謳われている。ぜひ住民のみなさん、それから利用者の目線で問題点を認識していただいて、公共施設の配置、またあり方そのものを再検討していただきますよう要望して、次に移る。

## （防災教育）

防災教育ですが、この本会議や昨年も防災体験施設につきましてはいろんな意見やご要望が上がっていたので一点だけ述べさせていただきたいと思う。

私が訪れた釜石市、大船渡市、陸前高田市など被災地では、被災地の記録を実物を写真パネルでしっかり残して展示して、またそこをそのセンターや建物を防災の拠点の発信地にするとりくみがなされていた。北九州市でも昭和28年や昨年の豪雨災害など、様々な資料がいまでもある。それを繰り返して学んで体験学習することが、子どもたちだけでなく、多くの市民に必要なこと。なんでこれをいま申し上げるかというと、科学館、最初の質問でも言ったが、いま科学館のコンセプト、展示物について活発な議論がなされようとしている。そういう中で大企業が生み出したいろんな科学の粋も必要だが、ぜひ自然科学、

自然災害の科学についても学ぶコンセプトを、しっかりと充実させて、みんなが学べるような施設にさせていただくように要望して、次に移る。

#### **（食糧困窮者・フードバンク支援）**

先ほど市長が生活困窮者自立支援事業でいろんな食糧を提供しているという風に言われた。

それでこの食糧なんだが、どのような方法で調達して、また相談者の人に渡しているのか、そしてこの方法はいいんだが、食料を支援した件数については、把握しておられるのか。

#### **■保健福祉局長**

それぞれの市民センターに、ボックスを置いて、市民センター以外にもいろんな施設がありますけども、そういうところにボックスを置いて、そこで回収して、それで渡されているという風に聞いております。

数等については、申し訳ございません、把握してございません。

#### **●藤元聡美議員の質問**

それは回収の方法です。市で行っております、命をつなぐネットワークコーナーでの渡し方についてですが、最初市長がこれから方法もいろんなことを研究していくと言われた。実際フードバンクの方の話を聞くと、食料としてはたくさんあるのに、取りに来るのになかなか市の方が腰が重たくて取りに来れないで支援ができていないと、いろんなことも声が上がっている。ぜひ協力連携をよろしくお願いします。

以上。